

ニコラ・テスラの遺産

陰謀論から技術革新・精神革命へ

井口和基 著

©KazumotoIguchi Research Laboratory

まえがき

地球環境の悪化に伴い、石油への依存から脱却し、何らかの代替エネルギー源を確保することは、我が国及び世界の急務の1つになって久しいです。そこで新たなエネルギー源として「フリーエネルギー」という言葉が現れました。現在では、この言葉の意味は、この地球へ降り注ぐ太陽光やこの地球上の風や潮汐や火山熱などを用いた、太陽光発電や風力発電や海洋発電や地熱発電などを意味する言葉になっています。

ところが、実はこの「フリーエネルギー」という言葉は、本来は化学においてドイツの化学者ヘルマン・ヘルムホルツが化学反応で取り出せる化学エネルギーのことを定義する言葉でした。当時の日本語では「遊離エネルギー」といいました。化学結合している物質を化学反応で分解し、自由に解離した時に現れ出る化学エネルギーのことでした。

これが、自然から取り出せる、あるいは、自然からもたらされる「ただのエネルギー」や「ただで自由に取り出せるエネルギー」という意味で使われるようになったのは、19世紀後半から20世紀前半のニコラ・テスラの時代になってからといえるでしょう。

ニコラ・テスラは、彼の発明したたくさんの特許の中で、この地球や太陽との関係、あるいは、重力の性質から、この宇宙空間そのもの、つまり、この室内の何もないと思われる空間そのものから自由にただでエネルギーが取り出せると考えたのです。その頃のテスラの同世代人はそういうエネルギーのことを「フリーエネルギー」と呼んだのです。以来、フリーエネルギーと世間でいうときは、化学の遊離エネルギーではなく、テスラたちのいった意味のフリーエ

エネルギーになりました。

ところで、フリーエネルギーといった場合、物理学者や科学者はそれはあり得ないことだと反論します。それは自然科学の大原理である「エネルギー保存の法則」に反するからだといいます。あるいは、熱力学の第二法則の「エントロピー増大の法則」に反するからだといいます。何もないところからエネルギーを取り出すことは不可能なことであり、仮にそれが取り出せたとしても、必ずエネルギーはどこかへ散逸して終いにはなくなってしまうからだというわけです。これが今現在の自然科学の世界の常識となる考え方です。

それに対してニコラ・テスラはそういう考え方に敢然と立ち向かい、それは君たちがこの自然というものの構造や仕組みをまだ十分に理解していないせいだと反論したのです。19世紀後半のことです。そして彼は実際に様々な装置を発明し、実際にそういうことが可能であることを示そうとしましたし、実際示しました。

ところが、その道半ば、彼のニューヨークの研究所は謎の火災にあって消失しました。またコロラド州のコールドスプリングスに移住した後に建設した、あの有名なテスラタワーのある研究所も後に謎の火災にあって消失しました。度重なる火災で装置や資材を失い、さらには研究の支援者がいなくなったことで、彼は研究が続けられなくなりました。以後、彼の信奉者たちは、同じような思想で同じような装置をどんどん製作したのですが、やはりそれぞれに謎の不審火の火災や破壊にあって研究できなくなったのです。あるいは、謎の突然死で亡くなるものも多かったのです。

こうしていつしか「フリーエネルギー」の研究は途絶え、それは物理法則に反した一種のオカルトだという風評が漂う世界になったのです。そしていつしか過去にはナイヤガラ滝を使った水力発電

でニューヨークのマンハッタンを明るくし、エジソンとスタインメッツとともにノーベル物理学賞にノミネートされたニコラ・テスラですら、マッドサイエンティストの代名詞になり、SF の格好のネタになっていったのです。

本書はこういうニコラ・テスラのたどった運命を 1 つの雛形としてつぶさに眺めながら、フリーエネルギーや UFO の原理に関する問題をこれまでとは全く違った視点で見ていくつもりです。

井口和基 Ph.D.

令和 3 年 (2021 年) 3 月 4 日 阿南の自宅にて

目次

第 I 部	ニコラ・テスラのテクノロジーの探求者たちへ	1
第 1 章	来たるべき未来とは何か？	2
1.1	100 年前の白黒写真の AI カラー化	2
1.2	120 年前の来たるべき未来像	3
1.3	50 年前の来たるべき未来像	5
1.4	科学技術はどんどん進歩しないのか？	6
1.5	ザ・マッドサイエンティスト: ニコラ・テスラ	8
1.6	ニコラ・テスラの 100 年後の未来像	11
1.7	ニコラ・テスラの電磁推進の未来	14
1.8	フリーエネルギーの未来	17
1.9	地球の周りの電気は静的か動的か？	20
1.10	今から 100 年後の未来とは？	27
第 2 章	ニコラ・テスラ物語	28
2.1	早熟の変わった天才	28

2.2	勤勉で真面目な貧乏サラリーマン	32
2.3	アメリカへ移民	35
2.4	発明王エジソンとの出会いと食い違い	37
2.5	独立し自分の研究所を作る	39
2.6	全て揃った電気工学のスーパースター	45
2.7	電流戦争の勃発	48
2.8	日本の電流戦争	53
2.9	新世界コロラド・スプリングス	54
2.10	暗い時代の幕開け	65
2.11	第一次世界大戦勃発	77
2.12	黄昏の晩年	80
2.13	第二次世界大戦末期のフーファイター	82
第3章	ニコラ・テスラのテクノロジー	84
3.1	イーロン・マスクのテスラ・モーターズ	84
3.2	特許ってなに?	88
3.3	特許の隠されたもう一つの効用	91
3.4	ニコラ・テスラの特許	94
3.5	回転磁場	109
3.6	テスラ・コイル	116
3.7	エリック・ドラードの登場	131
3.8	無線テクノロジーへのヒント	136
3.9	世界電信システム：無線通信	142
3.10	スケーリング	148
3.11	世界システム：無線送電	150
3.12	ニコラ・テスラの後継者	160

第4章	ニコラ・テスラの未踏科学	164
4.1	タービン	166
4.2	レーダー	167
4.3	U-ボート撃退法	170
4.4	誘導ミサイル	173
4.5	殺人光線とテレフォース	174
4.6	空飛ぶ機械 (垂直離陸機)	179
4.7	高周波医療機器	181
4.8	共振とは何か?	185
4.9	人工地震兵器 (Artificial Earthquake Weapon)	188
4.10	電磁波兵器 (HAARP)	189
4.11	ニコラ・テスラ探求	192
4.12	特許数の謎	195
第II部	反重力円盤テクノロジーの探求者たちへ	200
第5章	反重力研究の先駆者たち	201
5.1	反重力研究を行った人がいるのか?	201
5.2	アイザック・ニュートン：万有引力の功罪	205
5.3	マイケル・ファラデー：コイルの重力落下実験	217
5.4	ジェームズ・マクスウェル：重力の悩みの果てに	230
5.5	オリヴァー・ヘビサイド：認められない憂鬱	245
5.6	ウィリアム・トムソン：エーテルの伝道師	253
5.7	J・J・トムソン：電子の申し子	262
5.8	ウィリアム・クルックス：霊界通信	276

5.9	ジョルグ・シーメンスの理論	289
第 6 章	現代の反重力研究	293
6.1	現代の反重力研究のまとめ	294
6.2	反重力の肝：エーテルの存在	295
6.3	マイケルソン-モーリーの実験の顛末	297
6.4	ステファン・マリノフ博士の回転円盤片道実験 . .	305
6.5	アインシュタイン理論の終焉	308
6.6	オリヴァー・ヘビサイドの重力電磁場の理論 . . .	314
6.7	フォーワードの反重力理論	318
6.8	ナチスの UFO	329
6.9	ライスウェイテ博士のジャイロ重力	337
6.10	テスラの反重力円盤	348
6.11	ビーフェルド-ブラウン効果	360
6.12	トム・ベアデンのスカラー波理論	364
6.13	清家新一の反重力原理	388
6.14	Tr 3 B の反重力原理	392
6.15	反重力研究の大まかな歴史のまとめ	399
第 7 章	ロズウェル事件：すべてはここから始まった	403
7.1	ビル・クーパーの衝撃的な UFO・宇宙人暴露講演	403
7.2	フィリップ・コース大佐の証言	412
7.3	米軍は地下基地で何を研究していたのか?	416
7.4	スタン・デヨ博士の登場：電磁反重力エンジン . .	419
7.5	極秘研究開発の肝：区分化タコツボ化	425
7.6	ボブ・ラザー博士のフュージョン・エンジン . . .	430

7.7	マーク・マキャンドリッシュのフラックスライナー	434
7.8	デービッド・アデア博士のシンビオティック・エンジン	441
7.9	ピート・ピーターソン博士の宇宙人宇宙船	446
7.10	ダン・ブリッシュ博士のルッキンググラス	451
7.11	ヘンリー・ディーコン博士の2つのタイムライン	458
7.12	我が国より100年進んだ米軍の科学・技術	465
 第III部 宇宙人テクノロジーの探求者たちへ		 470
第8章	宇宙人の唯心論量子科学	471
8.1	世界の主要国の宇宙人協力者たち	472
8.2	宇宙人と地球人のテクノロジーの違い	484
8.3	カルダシェフ・スケール	487
8.4	半世紀先をいった岡潔の宇宙観	490
8.5	時空間は離散的だと考えた人たち	497
8.6	山本空外上人と山崎弁栄上人	512
8.7	「不一不二」というものの見方	514
8.8	「一なるものの法則」	516
8.9	ブルーエイヴィアン	518
8.10	量子モナドと唯心論物理学	522
第9章	宇宙人の唯心論量子医学	527
9.1	宇宙へ行く時に必要なハイテク医療技術	527
9.2	ジアルテミーとハイパーサミア	530
9.3	電磁波による再生治療	533

9.4	大村恵昭先生の O リングテスト	534
9.5	大村恵昭先生のツボテスト	539
9.6	ロシア人の発明メタトロン	543
9.7	日本人の発明 AWG ORIGIN	548
9.8	新型コロナを破壊する深紫外線 LED	560
9.9	メドベッド	567
9.10	なぜ社会は進化しないのか?	571
第 10 章	宇宙人のテクノロジー	576
10.1	宇宙人の姿	576
10.2	3 本指宇宙人のミイラ	579
10.3	3 本指宇宙人の円盤の操縦席	587
10.4	3 本指宇宙人の操縦法	588
10.5	エリア 5 1 とエリア 5 2	593
10.6	3 本指宇宙人の科学	597
10.7	バックミンスター・フラーのシナジェティクス	610
10.8	3 本指宇宙人の反重力の原理	614
10.9	アジア人型の宇宙人「かぐや姫」	618
10.10	北欧人型の宇宙人ウンモ星人	628
10.11	北欧人型の宇宙人プレアデス人	635
10.12	ロシアの北欧型宇宙人	642
10.13	アメリカの宇宙人	651
10.14	アメリカができる前に来た宇宙人ウィングメーカー	657

第Ⅳ部	真実の探求者たちへ：Q&A	661
第11章	UFO・空飛ぶ円盤 Q&A	662
11.1	反重力の原理を無視すべきものか？	662
11.2	重力を電磁気で制御する方法とは？	664
11.3	縦波と反重力との関係はあるのか？	665
11.4	精神を集中させると反重力を発生できるか	666
11.5	UFO が空中静止できる理由はなにか？	668
11.6	UFO の無重力空間の推進方法？	669
11.7	UFO の加速減速の原理はなにか？	669
11.8	UFO は光速を超えることは可能か？	670
11.9	UFO を作る物質は何か？ 地球上のものか？	675
11.10	UFO の質量はどれくらいか？	676
11.11	窓はあるか？ 窓の物質は何か？	677
11.12	UFO の外殻の耐熱温度は？ 使用可能温度？	677
11.13	UFO の内部の力はなにか？	678
11.14	急激な方向転換に絶えられるのはなぜか？	679
11.15	恒星間の移動方法は？ UFO のワープの方法は？	680
11.16	トランスポーターションや瞬間移動の原理は？	681
11.17	UFO が来るのは交流なのか？	682
11.18	かぐや姫は UFO に乗っていったのか？	683
第12章	真実を隠すための陰謀論	684
12.1	科学的議論がなぜ無視されるのか？	684
12.2	なぜ反重力→UFO→矢追純一→オカルト？	687
12.3	反重力がオカルトではないこと示して欲しい	689

12.4	フリーエネルギーはオカルトではなく実存する . . .	690
12.5	なぜアインシュタイン呪縛から抜け出せない？ . . .	693
第Ⅴ部 真実の探求者たちへ：番外編		696
第13章 縄文人と白人		697
13.1	縄文人と白人	697
13.2	縄文人 v s 弥生人説	702
13.3	縄文人とは何か？	702
13.4	オーパーツを研究する必要性	716
13.5	アメリカの巨人の骨	717
13.6	日本の岩手の巨人の骨	719
13.7	ゼカリヤ・シッチン博士のネフィリム	722
13.8	人類の「Y 染色体」ハプログループ分布	735
13.9	白人種のルーツ	744
13.10	日本の古史古伝	752
13.11	高橋良典氏の世界探求	763
13.12	縄文 v s 白人	786
13.13	【偽アイヌ問題】アイヌは先住民族ではない	810
13.14	人類と宇宙人の関係	818
第14章 日本列島修復論		822
14.1	戦後未曾有の危機が来た？	822
14.2	結論	823
14.3	令和と昭和の類似点	826
14.4	キャンディーズの誕生する前の時代	828

14.5	朝鮮進駐軍による日本人虐殺	841
14.6	大学紛争の時代	842
14.7	カチャルスキー博士	845
14.8	戦後復興の順番	848
14.9	ビートルズの時代	849
14.10	キャンディーズの時代 1 9 7 0 年代	852
14.11	田中角栄の日本列島改造論	853
14.12	高度成長の 1 9 7 0 年代	857
14.13	キャンディーズ現象	861
14.14	バブル全盛時代 1 9 8 0 年代	863
14.15	アメリカの策略	871
14.16	バブル崩壊 1 9 9 0 年代	876
14.17	平成元年	878
14.18	空白の 1 0 年	882
14.19	空白の 3 0 年	890
14.20	東朝鮮国から日本国へ	892
	あとがき	899